

神を獲得して、神の目的のために神によって造り変えられる

聖書：ヨブ 42:1-6. II コリント 3:8-9. 4:10-12, 16-18. 5:18-20

I. ヨブに対する神の意図は、ヨブが天のビジョンと神のエコノミーの実際の中に生きる人となることでした：

- A. ヨブの経験は、神の神聖なエコノミーにおいて神によって取られた段階であって、自ら満足していたヨブを消耗させ、はぎ取ることを遂行して、ヨブを取り壊しました。それは、神が道を得て、神ご自身をもってヨブを再建し、神をさらに深く追い求めることの中へとヨブを導いて、ヨブが神の祝福と、自分の完全さと高潔さにおける達成ではなく、神を獲得するためでした——ピリピ 3:10-14. I コリント 2:9. 8:3. 出 20:6. 歴代上 16:10-11. 22:19 前半. 歴代下 12:14. 26:3-5. 34:1-3 前半. 詩 24:6. 27:4, 8. 105:4. 119:2, 10. ヘブル 11:6。
- B. 神を顧慮していない者は、多くのものを獲得するかもしれず、繁栄しているように見えるかもしれませんが（詩 73:1-15）。しかしながら、神を顧慮する者は、神によって制限され、さらには神によって多くのものをはぎ取られるでしょう。神を追い求める者たちに対する神の意図は、彼らが神の中にあらゆるものを見いだして、絶対的に神ご自身を享受することからそらされないようにすることです（16-28 節）。
- C. 神の聖なる民を対処する神の目的は、彼らがすべてを空にされて、神だけを彼らの獲得として受け入れることです（ピリピ 3:8. 参照、詩 73:25-26）。神の心の願いは、わたしたちが神を命として、命の供給として、わたしたちの存在のすべてとして、完全に獲得することです（ローマ 8:10, 6, 11. 参照、コロサイ 1:17 後半, 18 後半）。
- D. わたしたちは、神聖な分与を伴う神のエコノミーの実際の中を生きるために、神がご自身をわたしたちの内在的な構成の中へと建造し込んで、わたしたちの全存在がキリストで再構成されることを必要とします：
  - 1. パウロの書簡で明らかにされているように、わたしたちを対処する神の目的は、わたしたちからすべてのものをはぎ取り、わたしたちを消耗させることです。それは、わたしたちがさらに多く神を獲得するためです——II コリント 4:16-18。
  - 2. 召会の建造は、キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造ることによります。すなわち、彼がご自身をわたしたちの中へと建造し込み、わたしたちの心、わたしたちの内在的な構成を、ご自身のホームとすることによります——エペソ 3:16-21。
- E. キリストの中で、神は人の中へと構成され、また人は神の中へと構成され、神と人は共にミングリングされて一つの実体、神・人となりました。このことが暗示するのは、神のエコノミーにおける神の意図が、ご自身を人と成らせ、人を神格においてではなく、命と性質において神とならせるということです

——サムエル下 7:12-14 前半、ローマ 1:3-4、マタイ 22:41-45、ヨハネ 14:6 前半、10:10 後半、I コリント 15:45 後半、ヨハネ 6:63、II コリント 3:6、I ヨハネ 5:16 前半。

II. 神のエコノミーは、神が肉体と成ることを通して、肉体における人と成り、人が造り変えを通して、その霊の中で神となって、神を人の中へと建造し込み、人を神の中へと建造し込んで、団体の神・人を獲得することです：

A. 永遠であり三一である神が人と成って経過した、最も驚くべき、卓越した、奥義的な、すべてを含む造り変えは、人の中での神の行動であり、神の永遠のエコノミーを完成します——ミカ 5:2、ヨハネ 1:14, 29, 3:14, 12:24, 使徒 13:33、

I ペテロ 1:3、I コリント 15:45 後半、使徒 2:36, 5:31、ヘブル 4:14, 9:15, 7:22, 8:2 :

1. これらの造り変えは、三一の神が経過した手順です。その中で三一の神は、神・人と成って、神性を人性の中へともたらし、神性と人性をミングリングして、原型となり、多くの神・人を大量に複製しています。彼は三一の神の具体化となり、神を人にもたらし、神を、接触することのできる、触れることのできる、受け入れることのできる、経験することのできる、入ることのできる、享受することのできるものとなりました——ヨハネ 1:14、コロサイ 2:9、ローマ 8:28-29。

2. 神はこれらの造り変えについてホセア書第 11 章 4 節で語って、「わたしは人の綱、愛のきずなで彼らを引いた」と言っています。「人の綱、愛のきずなで」という句が示していることは、神がわたしたちを彼の神聖な愛で愛するのは、神性の水準においてではなく、人性の水準においてであるということです。神の愛は神聖なものですが、それがわたしたちに届くのは、人の綱において、すなわち、キリストの人性を通してです：

a. 神がわたしたちを引く綱（これらの造り変え、これらの手順）は、キリストの肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を含んでいます。キリストの人性におけるこれらすべての段階によって、神の救いにおける愛はわたしたちに届きます——エレミヤ 31:3、ヨハネ 3:14, 16, 6:44, 12:32、ローマ 5:5, 8, I ヨハネ 4:8-10, 16, 19。

b. キリストの中にいなければ、神の永遠に続く愛、すなわち、彼の変えることのない、人を征服する愛は、わたしたちの上で勝利を得ることができません。神の変えることのない愛が勝利を得ることができるのは、この愛がキリストの中にあり、キリストと共にあり、キリストによってであり、キリストのためであるからです。

c. 神の永遠に続く愛は、いつも勝利を得ます。わたしたちが失敗し過ちを犯しても、最終的に神の愛は勝利を得ます——ローマ 8:35-39。

B. 三部分から成る人の造り変えは、神の行動であって、人を神化し、手順を経て究極的に完成された三一の神をもって人を構成します。神がヨブに現れた時、ヨブは神を見て、神を獲得し、神の目的のために神によって造り変えられました——ヨブ 38:1-3, 42:1-6, II コリント 3:16-18, ヘブル 12:1-2 前半：

1. 神を見ることの結果は、わたしたちの存在を神のかたちへと造り変えることです。このゆえに、わたしたちは霊の中で、究極的に完成された霊としての彼を見つめれば見つめるほど、ますます彼のすべての成分を神聖な要素としてわたしたちの存在の中へと受け入れて、わたしたちの古い要素が排出されて、わたしたちの全存在は新しくなります。わたしたちのクリスチャン生活は、外側で変えられる事柄ではなく、内側から造り変えられる事柄です——Ⅱコリント 3:18. 詩 27:4. ガラテヤ 6:15-16.
2. わたしたちは、わたしたちの心を主に向けることによって、造り変えの過程の中に日々とどまることができます。それによって、わたしたちはおおいのない顔をもって、主を見つめ反映することができます。おおいのない顔とは、主に向いている心です——Ⅱコリント 3:16, 18 :
  - a. わたしたちの心を主に向けることは、主を愛することです。わたしたちが主を愛すれば愛するほど、ますますわたしたちの心は主に開き、そしてますます主はわたしたちの霊から、心のすべての部分の中へと拡大する道を得ます。
  - b. わたしたちの心を主に向け、主に開くことは、わたしたちが命において成長するかぎです。わたしたちは、「おお、主よ、わたしはあなたを愛します。わたしはあなたを喜ばせたいのです」と単純に主に告げることによって、わたしたちの心を主に開くことができます。
  - c. わたしたちは日ごとに、すべての状況の中で主を見つめるとき（詩 27:4）、主の栄光を反映して、栄光から栄光へ、主のかたちへと造り変えられます。
  - d. 多くのクリスチャンが喜んでいないのは、彼らの内側のその霊が喜んでいないからです（エペソ 4:30. 参照、詩 16:11. 43:4. 使徒 3:19-20. 出 33:11, 14-17. ヘブル 1:9. エレミヤ 15:16. ヨハネ 15:9-11. I ヨハネ 1:3-4. II ヨハネ 12節. ピリピ 4:4）。もしわたしたちが心を主に向けず、主の霊にわたしたちの霊から心の中へと拡大していただかないなら、抑圧されていると感じ、意気消沈するでしょう。
  - e. 主の霊のあるところには、自由があります（Ⅱコリント 3:17）。もしある人が、集会は退屈であると言うなら、その人自身が内側で退屈しているということを、わたしたちは認識しなければなりません。しかし、わたしたちは心を主に向けるとき、その霊をわたしたちの自由として享受します。
  - f. 解放する霊がわたしたちの心のすべての部分の中へと拡大する道を得るなら、わたしたちは解放され、超越し、自由にされます。この自由は栄光であって、神の臨在また神の表現です。わたしたちは高貴であると感じ、誉れであると感じ、栄光であると感じます。なぜなら、わたしたちは神のかたちへと造り変えられていくからです——Ⅱコリント 3:18. 創 1:26.
- C. 造り変えは、わたしたちを一つのかたち、すなわち古い人のかたちから、別のかたち、すなわち新しい人のかたちへと移します。主は、キリストの死の殺すことによってこの造り変えの働きを完成します——Ⅱコリント 4:10-12, 16-18 :

1. パウロはⅡコリント第4章10節で、わたしたちには絶えず体に、イエスの致死力が働いていると言っています。「致死力」は、殺すことを意味します。キリストの死は、わたしたちを殺します——Ⅰコリント15:31, 36. ヨハネ12:24-26. Ⅱコリント1:8-9。
  2. キリストの死は、複合の霊の中にあります。その霊はキリストの死とその効力の適用です——出30:22-25. ローマ8:13。
  3. クリスマン生活は、常に複合の霊によって殺されることの下にある生活です。この日ごとの殺すことは、内住する霊と、殺す武器である環境によって遂行されます。
  4. 神の神聖な、主権ある案配の下で、キリストの死の殺すことを通して、すべては働いて、わたしたちの益となり、わたしたちを造り変えます。ローマ第8章28節の「益」は、物質の人、事、物と関係がありません。益であるのは神だけです——ルカ18:19：
    - a. わたしたちに関係のあるすべての人、事、物は、聖霊の手段であって、わたしたちのために働いて益（good）となります。それは、わたしたちが善きもの（good）を（詩68:19前半）、すなわち、三一の神ご自身を積み込まれることができるためです（参照、創45:5. 50:20）。
    - b. わたしたちに関係のあるすべての人、状況は神の霊によって案配されて、わたしたちの内側における彼の働きに符合します。それは、わたしたちが造り変えられて、神の長子のかたちへと同形化されるためです——参照、マタイ10:29-31。
- D. 造り変えは、わたしたちが聖霊の管理を経験するとき、わたしたちの中で遂行されます——ローマ8:2, 28-29. ヘブル12:5-14：
1. わたしたちのその霊の内側の働きは、わたしたちのために新しい存在を構成することですが、その霊の外側の働きは、わたしたちの環境を通してわたしたちの天然の存在のあらゆる面を取り壊すことです——参照、エレミヤ48:11。
  2. わたしたちは、内なる活動する霊と協力して、神がわたしたちのために案配した環境を受け入れるべきです——ピリピ4:12. エペソ3:1. 4:1. 6:20. Ⅰコリント7:24。
- Ⅲ. 務めは、啓示に苦難が加えられて生み出されるものです。わたしたちが見るものは、苦難を通してわたしたちの中へと造り込まれます。このゆえに、わたしたちが供給するものは、わたしたちであるものです：
- A. 奉仕者は多くいますが、彼らはただ一つの務め、すなわち神の新約エコノミーを完成するための新契約の務めを持っています。わたしたちがキリストと共に働くことは、この唯一の務めを遂行することであり、キリストを人に供給してキリストのからだを建造することです——使徒1:17. エペソ4:11-12. Ⅰテモテ1:12. Ⅱコリント4:1. 6:1前半。
  - B. 全体として、からだは一つの、唯一の団体の務めを持っていますが、この務め

はキリストのからだの奉仕であるので、またこのからだには多くの肢体があるので、すべての肢体には各自の務めがあります。それは、その唯一の務めを遂行するためです——使徒 20:24. 21:19. II テモテ 4:5. コロサイ 4:17。

- C. この務めは、わたしたちが経験したキリストを供給するためであり、それは、苦難、消耗させる圧迫、十字架の殺す働きを通して得られるキリストの豊富を経験することによって、構成され、生み出され、形成されます——使徒 9:15-16. コロサイ 1:24. ピリピ 3:10. I テモテ 4:6. II コリント 1:4-6, 8-9, 12. 3:3, 6 :
1. その霊の務めは、わたしたちが神聖な啓示の高嶺に到達するためであり、それは、わたしたちがキリストを、命を与えるその霊として供給することによります——II コリント 3:8-9, 6, 3. 啓 22:17 前半。
  2. 義の務めは、わたしたちが神・人の生活の中へと入るためであり、それは、わたしたちがキリストを、わたしたちの客観的な義としてだけでなく、またわたしたちの主観的な、生かし出された義として供給して、キリストを真に表現することによります——ローマ 5:17. ピリピ 3:9. 啓 19:8。
  3. 和解の務めは、わたしたちがキリストの牧養する天の務めにおいてキリストとの一の中で、神にしたがって人を牧養するためであり、それは、わたしたちがキリストを和解の言葉として供給して、神の民を、至聖所としての彼らの霊の中へともたらし、彼らを霊の中の人とならせることによります——II コリント 5:18-20. ヨハネ 21:15-17. I ペテロ 5:2-4. 2:25. 啓 1:12-13. ヘブル 10:19, 22. I コリント 2:15。
  4. わたしたちがこのようすばらしい務めの三つの面の中へと完全に入ることによって、主は諸召会を新しい復興の中へともたらず道を得ます。
- D. 患難は、キリストのすべての豊富を伴った恵みの甘い訪れと化身です。恵みは、おもに患難の形でわたしたちに訪れます——II コリント 12:7-10 :
1. 患難を通して、わたしたちの天然の存在に対するキリストの十字架の殺す効力は、聖霊によってわたしたちに適用され、復活の神はご自身をわたしたちの中へと加える道を持つようになります——II コリント 1:8-9. 4:16-18。
  2. 患難は忍耐を生み出します。忍耐は、練達（良しと認められた質）を生み出します。練達は、患難や試練を耐え忍び、経験した結果、良しと認められた質、属性です——ローマ 5:3-4。
- E. 神はご自身を愛として、わたしたちに与えられた聖霊と共にわたしたちの心の中に注ぎ、わたしたちの内側の動機づける力とならせました。それは、わたしたちがすべての患難の中で勝ち得て余りがあるためです。ですから、わたしたちはどのような患難でも耐え忍ぶとき、恥をかかせられることはなく、キリストを生きて、キリストを大きく表現します——ローマ 5:5. 8:31-39. II コリント 5:14-15. ピリピ 1:19-21 前半。